

女子 窮地から勝機開く

仲西男女ハンド頂点



女子決勝 仲西一浦西 後半24分、延長に持ち込むペナルティーシュートを決める仲西の渡久地美音。背後は浦崎春菜＝25日、浦添市民体育館（花城太撮影）

1点ビハインドで残り16秒。この窮地から女子仲西は勝機を切り開いていった。

ここでタイムアウトを取り「前を狙っていこう」と強気のプレーを確認。再開後、2年生の浦崎春菜が「時間がない。自分がいくしかない」と

焦点

直前の確認通りに強引に切れ込み、残り5秒でペナルティーをもぎ取った。

これを主将の渡久地美音が決め、試合は延長へ。この段階で神谷加代子監督は流れをつかんだことを感じていた。「やってきた走り込みでは絶対に負けないから足は止まらない。主将が

同点にしたことで勢いにも乗る」

延長前半、右から左にずらしてスペースをつくるプレーで2点を連取。相手に退場者が出て数的に優位だったこともあるが、指揮官の読み通りに運動量は落ちず、攻めの基本の「ずらし」を着実に決めて奪ったり

ドを守りきった。

前日の準々決勝では最大8点差をひっくり返して勝ち上がるなど、苦しい試合を乗り越えてつかんだ9年ぶりの優勝。渡久地主将は「走ってきてよかった」ときつかった練習の成果を喜んだ。

（新垣和也）

屋比久起点に
高い攻撃展開
男子仲西、全国視野
○：男子の仲西は準決勝
で美東に1点差で競り勝ち

決勝へ。「リードを許した
焦りで攻撃が単調だった」
(神谷監督)という準決勝
の反省を生かし、決勝では
前半から主導権を握った。
守備陣のすき間を速い動
きで突く神森を前に出るこ
とで封じた。前半はトップ
DFを高く置いた1-2-
3システムの間を割られる
場面もあったが、後半にフ
ラットラインに切り替える
と、左右で連動し、シュー
トコースを封じた。
厳しい体勢で打たせたシ
ュートはGK赤嶺希がさば
いて、次々と速攻のロング
パスを供給。準決勝で決勝
点を挙げたエース屋比久浩
之を起点に高さや速さを生



男子決勝 仲西一神森 前半、シュートを
決める屋比久浩之(仲西)

かした攻撃を展開した。
3月の全国大会では優勝
した大体大付(大阪)に準
々決勝で3点差の惜敗。
「8月の全国大会で忘れ物
の優勝を取りに行く」を合
言葉にしてきた。主将の赤
嶺は「まだまだ通過点」と

【男子】		浦添市民体育館	
仲西	30	17	13
13	16	29	美東
仲西	28	15	13
12	21	23	神森
仲西	19	11	8
11	6	17	宮里
仲西	21	3	3
7	8	18	浦西
3	3	2	1
7	8	18	浦西